

令和元年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立市岡東中学校

令和2年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査、大阪市統一テストの結果、大阪市の平均からしても低い得点になっている本校の特徴として、授業は静かに展開されているものの学力的に厳しい生徒が集中できていない、居眠りをしてしまっているなどが見受けられる。この生徒の学力を保障することが本校の学力向上への一番の近道であることを教職員共通の理解と今後の課題としてまとめている。
- ほとんどの生徒は、規律のある学校生活を送っているが、わずかな生徒が外部での問題行動をくり返しているところである。校内では、落ち着いた環境を保てるようになってきているところであるが、学校の清掃が行き届いていないと思っている生徒、そして清掃活動を積極的に行っている生徒の割合がまだまだ低いことがアンケートの結果より見えており、この点の改善が本校の生活指導上の課題とも考えられる。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。
- 平成 32 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。
- 平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を平成 29 年度末の校内調査より減少させる。
- 平成 32 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を平成 29 年度末の校内調査より減少させる。
- 平成 32 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと）
- 平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 4 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 3 ポイント減少させる。
- 平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 3 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、平成 28 年度より増加させる。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m 走、立ち幅とびの平均の記録を、平成 28 年度より 3 ポイント向上させる。
- 学力の基礎となる読解力を向上させるため、読書活動を推進し、図書室を週 8 回以上開館する。
- 平成 32 年度末の校内調査における「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。
- 平成 32 年度末の校内調査における「家庭学習を習慣的に行っている」の項目について、「当てはまっている(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 校内調査において、「学校の清掃が行き届いている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において、「学校をきれいに保つために積極的に清掃活動に参加している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 校内調査において、「自分は毎日授業に集中することができている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

○令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にするについては、4 件中 4 件解消でき、**解消した割合は 100%であり、達成できた。**

○令和元年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にするについては、**98.7%で達成できた。**

○令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させるについては、平成 29 年度 5 名、平成 30 年度 3 名、**令和元年度 0 名で一部の生徒に課題はあるものの減少傾向にあり達成できた。**

○令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させるについては、平成 30 年度 1 名から**令和元年度 2 名と増加し、達成できなかった。**

学校園の年度目標

○校内調査において、「学校の清掃が行き届いている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にするについては、**87.7%で達成できた。**

○校内調査において、「学校をきれいに保つために積極的に清掃活動に参加している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にするについては、**88.6%で達成できた。**

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

3 年生：5 教科 101.4→102.6 (1.2 向上)、達成。3 教科 96.2→95.2 (1.0 低下)、達成せず。

2 年生：90.6→98.8 (8.2 向上)、達成。

○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。

3 年生：19.2→26.0 (6.8 増加) 達成せず。

2 年生：30.8→23.3 (7.5 減少) 達成。

○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。

3 年生：27.4→30.1 (2.7 増加) 達成。

2 年生：16.7→27.4 (10.7 増加) 達成。

○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるについては、**平成 30 年度 79.2%から令和元年度 83.8%へと増加し、達成できた。**

○令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m 走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より向上させるについては、

男子

シャトルラン : 77.64→92.36 (14.72 回増)

50m 走 : 7.94→8.02 (0.08 秒遅)

立ち幅とび : 186.22→178.96 (7.26 cm 減)

と男女 6 種目中 4 種目で記録が向上した。

女子

、52.06→56.22 (4.16 回増)

、8.58→8.47 (0.11 秒速)

、170.16→180.04 (9.88 cm 増)

学校園の年度目標

○校内調査において、「自分は毎日授業に集中することができている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にするについては、**79.9%で達成できなかった。**

大阪府立市岡東中学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|----------|
| 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標 ○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 ○校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 ○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 学校園の年度目標 ○校内調査において、「学校の清掃が行き届いている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にする。 ○校内調査において、「学校をきれいに保つために積極的に清掃活動に参加している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にする。 | C |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|----------|
| 取組内容①【施策 道徳教育】 ・学校生活のさまざまな場面を通じて、人間尊重の精神を培う。 ・各学年とも、道徳の副読本や『私たちの道徳』を積極的に活用し、実践を記録する。 ・1年に一度、全学年で道徳の公開授業を行う。 指標 各学年とも道徳の副読本や『私たちの道徳』を積極的に活用し、実践記録する。 なお、1年に一度、全学年で道徳の公開授業を行う。 | B |
| 取組内容②【施策 特別支援教育】 個に応じた指導・支援のあり方を工夫する。 指標 学期に一度、全体研修会を実施する。 | C |
| 取組内容③【施策 基本的な生活習慣の確立】 時間励行・挨拶の習慣付け、正しい言葉遣い、正しい服装の指導をおこなう。 指標 学校アンケートで、服装や時間を守るなどのルールを守っていると答える生徒の割合を 90%以上にする。 | B |
| 取組内容④【施策 規範意識の育成】 校則と集団生活でのマナーを習得させる。 指標 学校アンケートで、学校の決まりを守っていると答える生徒の割合を 90%以上にする。 | B |
| 取組内容⑤【施策 生活指導上の課題への対応（生徒理解）】 家庭訪問、教育相談を中心に、生徒個々の実態を把握し、生徒理解を深める。 指標 学校アンケートで、困ったときに相談できる先生がいると答える生徒の割合を 1回目より 2回目で向上させる。 | B |

| | |
|--|---|
| <p>取組内容⑥【施策 生活指導上の課題への対応（不登校問題）】</p> <p>スクールカウンセラーと連携し、当該生徒個々の実態に応じた対策を講じる。</p> <p>指標 不登校傾向にある生徒に寄り添い、保護者との連携を深める。</p> | B |
| <p>取組内容⑦【施策 安全教育】</p> <p>地震、津波、火災等を想定した避難訓練を実施する。</p> <p>指標 避難訓練を年間2回実施する。</p> | B |
| <p>取組内容⑧【施策 健康な生活習慣】</p> <p>保健委員会活動や保健指導を通し、生徒の健康意識を高める。</p> <p>指標 自己の健康課題に向き合えるように促し健康意識を高め、検診後の受診勧告の未受診率を前年度より減少させる。</p> | B |
| <p>取組内容⑨【施策 性教育】</p> <p>年間指導計画の元、各学年の現状に沿った指導を実施する。</p> <p>指標 各学年で1回性教育を実施する。専門知識の豊富な外部講師に講演を依頼する。</p> | B |
| <p>取組内容⑩【施策 環境整備】</p> <p>整美委員会活動や、定期的な点検により、校内美化の意識を高める。</p> <p>指標 アンケートで学校の清掃が行き届いていると答える生徒の割合を80%以上とする。</p> | B |
| <p>取組内容⑪【施策 研修計画】</p> <p>全体研修を計画し、全職員が参加できる体制をつくる。</p> <p>指標 生徒の安心安全にかかわる研修会を年間1回実施する。</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にするについては4件中4件解消でき、解消した割合は100%であり、達成できた。</p> <p>○令和元年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にするについては、98.7%で達成できた。</p> <p>○令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させるについては、平成29年度5名、平成30年度3名、令和元年度0名で一部の生徒に課題はあるものの減少傾向にあり達成できた。</p> <p>○令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させるについては平成30年度1名から令和元年度2名と増加し、達成できなかった。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○校内調査において、「学校の清掃が行き届いている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にするについては、87.7%で達成できた。</p> <p>○校内調査において、「学校をきれいに保つために積極的に清掃活動に参加している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にするについては、88.6%で達成できた。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>①道徳の副読本や『私たちの道徳』を活用し、読み物教材を使用して行い、ワークシートとして記録を残した。相互授業見学週間（フリー参観）やその他の場面で行った。</p> <p>②1学期に巡回相談の際に研修会を行い、毎月職員会議で情報共有を行った。</p> <p>③該当する質問に生徒アンケートで肯定的に回答した生徒の割合 1回目94.8%、2回目96.5% 全校集会、学年集会、登校指導の際に身なりを整える習慣と意識を持たせることができた。</p> | |

- ④該当する質問に生徒アンケートで肯定的に回答した生徒の割合 **1 回目 96.2%、2 回目 98.7%**
校則を明確化し、ルールを守る意識を育む指導を行った。
- ⑤該当する質問に生徒アンケートで肯定的に回答した生徒の割合 **1 回目 64.4%、2 回目 66.6%**
教育相談を設定し、個別に話ができる時間を設けた。また、教員間で密に情報交換をはかり、生徒理解に努めた。
- ⑥生徒の実態に応じた対策を講じ、担任を中心に保護者と連携をはかり、定期的に当該生徒との連絡がとれた。
- ⑦1 学期に火災、2 学期に地震を想定した訓練を行った。
- ⑧年 3 回以上の受診勧告を行った。**何度受診勧告をしても反応のない生徒には個別の指導を根気よく何度も行った。また懇談時にアンケート調査をするなどして保護者への働きかけも行い、受診率は 68%→80%に上昇した。**
- ⑨今年度は各学年外部講師を招いた性教育を実施できた。事前打ち合わせもでき学年の意向に沿った内容であり、教師とはまた違った視点で専門的な知識をわかりやすく講演していただくことができた。聞く生徒側も緊張感を持ち密度の濃い学習時間となった。
- ⑩該当する質問に生徒アンケートで肯定的に回答した生徒の割合 **1 回目 89.6%、2 回目 87.7%**
学校全体としてどの学年も清掃に積極的である。整美委員会が実施した美化週間期間では丁寧に点検活動をし、優秀な学級を学年集会で表彰し美化意識の向上を図った。
- ⑪生徒の安心安全にかかわる研修会として1 学期に部活動所属生徒と職員を対象とした AED 研修を実施した。

次年度への改善点

【目標設定】について

●「学校での生活が楽しい」と回答した生徒の割合は 89%と昨年度よりも高く、学校で認知したいじめについても 100%解消してはいるが、学校アンケートで、「困ったときに相談できる先生がいる」と答える生徒の割合は 66.6%と昨年度の 80%と比較して大幅に減少している。生徒が安心して過ごせる学校を作っていくためにも、教育相談活動を充実させる必要がある。

【取組内容】について

- ①校内研修を実施し、教員の指導力向上をはかる。
- ②個別の支援計画を作成し、生徒理解と支援方法の共通認識をはかる。
- ③今後も継続して指導し、教職員間生徒間の共通認識をはかる。
- ④今後を継続して指導し、規範意識を育てる。
- ⑤生徒の些細な変化に気づき、寄り添い理解を深める。
- ⑥個々の生徒の実態を共通認識し、安心して過ごせる集団作りをする。
- ⑦防災意識を高め、避難時の行動と防災知識を身に付けさせる。
- ⑧今後も継続して受診勧告を適切に実施し、個別の指導にも力を注いでいきたい。
- ⑨学校行事との日程調整が課題ではあるが、来年度も外部講師の依頼を継続していきたい。
- ⑩今後改修工事が進み新しい校舎になるに伴い、清掃方法の変更や改善を検討することが課題となってくる。
- ⑪他の行事との調整をはかりながら、より多くの生徒、職員が参加できる日程を調整する。

大阪市立市岡東中学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|----------|
| <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。</p> <p>○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内調査において、「自分は毎日授業に集中することができている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> | C |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|----------|
| <p>取組内容①【施策 よくわかる授業の実施】</p> <p>教科の特性を活かし、よくわかる授業を積極的に行う。</p> <p>指標 学校アンケートで授業がよくわかると答える生徒の割合を1回目より2回目を向上させる。</p> | B |
| <p>取組内容②【施策 授業展開の工夫】</p> <p>主体的、対話的で深い学びができるようICT機器を活用するなど、生徒が主体的に学習する授業を展開する。</p> <p>指標 学校アンケートで自分は毎日授業に集中することができていると答える生徒の割合を1回目より2回目を向上させる。</p> | C |
| <p>取組内容③【施策 授業研究】</p> <p>年間を通して、校内研究授業（研究討議を含む）を行い、授業力の向上に取り組む。</p> <p>指標 年間を通じ、校内研究授業を1人1回実施する。</p> | B |
| <p>取組内容④【施策 特別活動】</p> <p>さまざまな体験学習や鑑賞などを実施し、豊かな感性を育てる</p> <p>指標 アンケートで行事は楽しみであると答える生徒の割合を80%以上にする。</p> | B |
| <p>取組内容⑤【施策 食育】食生活の見直しや自己管理ができるよう、食育通信などを発行し、食生活への関心を高めさせる。</p> <p>指標 好き嫌いなくバランスの取れた食事ができるよう、給食の残食率減少を促す。</p> | B |

| | |
|--|---------------------------|
| 取組内容⑥【施策 図書館の活性化】 学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。 | B |
| 指標 図書館の開館を週 8 回以上行う。 | |
| 取組内容⑦【施策 地域人材の活用】 学校元気アップ事業を活用し、自主学習会を実施する。 | B |
| 指標 定期テスト前や放課後、長期休業中自主学習会で、平均週 2 回以上実施する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| 全市共通目標 | |
| ○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 | |
| 3 年生：5 教科 101.4→102.6 (1.2 向上)、達成。3 教科 96.2→95.2 (1.0 低下)、達成せず。 | |
| 2 年生：90.6→98.8 (8.2 向上)、達成。 | |
| ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。 | |
| 3 年生：19.2→26.0 (6.8 増加) 達成せず。 | |
| 2 年生：30.8→23.3 (7.5 減少) 達成。 | |
| ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。 | |
| 3 年生：27.4→30.1 (2.7 増加) 達成。 | |
| 2 年生：16.7→27.4 (10.7 増加) 達成。 | |
| ○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるについては、平成 30 年度 79.2%から令和元度 83.8%へと増加し、達成できた。 | |
| ○令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50 m 走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より向上させるについては、 | |
| 男子 | 女子 |
| シャトルラン : 77.64→92.36 (14.72 回増) | 、52.06→56.22 (4.16 回増) |
| 50m走 : 7.94→8.02 (0.08 秒遅) | 、8.58→8.47 (0.11 秒速) |
| 立ち幅とび : 186.22→178.96 (7.26 cm減) | 、170.16→180.04 (9.88 cm増) |
| と男女 6 種目中 4 種目で記録が向上した。 | |
| 学校園の年度目標 | |
| ○校内調査において、「自分は毎日授業に集中することができている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 8 0 %以上にするについては、79.9%で達成できなかった。 | |
| 【取組内容】について | |
| ①該当する質問に生徒アンケートで肯定的に回答した生徒の割合 1 回目 76.0%、2 回目 77.6% プロジェクトやタブレットなどの ICT 機器を活用した視覚的学習や、小テスト・実技テストなど單元ごとの反復学習、少人数での習熟度別学習など各教科で分かりやすい授業展開を積極的に実施していただいた。また、昨年度からの校内研究授業を実施したことにより、授業改善が日々積み重ねられていることも考えられる。 | |
| ②該当する質問に生徒アンケートで肯定的に回答した生徒の割合 1 回目 82.8%、2 回目 79.9% タブレット端末の 1 学級あたり月平均活用数は 4 月 2.3、5 月 7.3、7 月 9.2、8 月 4.0、10 月 6.3、11 月 15.2、12 月 10.7 であった。タブレット端末を使う教科が増えてきており、授業の中で、生徒がタブレット端末を使いグループで調べた内容を発表し合うなどの活用が見られ、主体的に使うことが増えてきた。また、授業用パソコンは各教科で積極的に活用されている。 | |

- ③2月に1回予定してある校内研究授業を実施すれば、校内すべての教員が1回以上の研究授業を行ったことになる。また、研究討議の時間を毎回確保したことで、授業力の向上につながった。
- ④学校行事や芸術鑑賞等の体験を行うことができた。また、アンケートにおいて該当する質問に肯定的に回答した生徒の割合は **1回目 86.7%、2回目 90.3%** と、**どちらも目標を上回ることができた。**
- ⑤バランスの良い食事で免疫力アップ（バランスが良く栄養たっぷりの給食をしっかり食べよう）キャンペーンを行った結果、アンケート調査において今回のキャンペーンで給食をしっかり食べようと思いましたかの問いに「はい」と答えた生徒が95%とほとんどの生徒がしっかり食べることの大切さを理解した。
- ⑥視聴覚委員や図書部との連携により、毎日昼休みと月、火、木曜日の放課後の計8回開室を行うことができた。10月16日から1月24日までに来室数は445名であった。
4月19日から現在（1月24日）までの総来室数は1514名であった。
- ⑦定例学習会、テスト前、夏休み中など学校元気アップ事業と連携して学習会を実施した。開催数についてもテスト前や夏休み中など集中的に実施した面はあるが、平均2回以上は実施できた。

次年度への改善点

【目標設定】について

●「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は平成29年度69.5%、平成30年度79.2%、令和元年度83.8%と年々増加している。生徒は友達との対話を通じて学習の理解が深まっていることを実感している。そのため、教員主導の授業形態から、生徒の主体的活動や、生徒の思いや考えを伝え合う学習形態の場面を増やしていく必要があり、今年度参加した「主体的・対話的で深い学び」の推進プロジェクトを発展させ、教員が個別に授業改善を行うのではなく、授業改善の取組をより効果的なものにするために、めざす授業の姿を共有するなど組織的に進める。

【取組内容】について

- ①教科間で意見交換を活発に行い、効果がみられるものを積極的に取り入れるようにする
- ②ICT機器の活用を教員だけでなく、生徒もタブレット機器を使うなど、積極的に活用する。
あわせて調べ学習など自発的な取り組みを検討する。
- ③取り組み日程の検討及び、より活発に意見交換ができるような研究討議の方法を検討する。
- ④次年度のテーマに沿った取り組みの情報収集と、今後の検討課題を模索していく。
- ⑤給食週間による啓発活動を今後も継続していきたい。食育通信や掲示物への関心率が低かったため今後の課題としたい。
- ⑥次年度は、週8回の開室とともに、委員会活動を通して、呼びかけやポスターの掲示などを行い、来室数が増加するように努めていく。
- ⑦教職員が行っている自主学習会と学校元気アップ事業とのタイアップを模索する。

年度目標に向けた各教科の取り組み

| |
|---|
| ①【国語科】 ・基本的学習習慣、家庭学習習慣の定着のために、漢字テスト、小テストを実施する。 ・定期テストの作文問題出題、小論文指導等を通じて、書く力を向上する。 |
| ②【社会科】 ・生徒の興味・関心を高める授業や教材を工夫するとともに、基礎、基本の定着を図る。 ・グループによる協同学習に取り組み「主体的で、対話的で深い学び」の実現を目指す。 |
| ③【数学科】 ・プリント等の教材を作成し、家庭学習の習慣を定着させる。 ・少人数習熟度別授業を行うことで基礎学力の向上を図る。 |
| ④【理科】 身近なものから自然科学に興味を持たせ、自然の事物や現象について理解を深めさせる。また、プリント等の補助教材を使って、基礎学力の定着に努める。 |
| ⑤【英語科】 教科書内容理解を4領域(読む・聞く・話す・書く)の活動を通して行い、英語でのコミュニケーション能力の基礎を養う |
| ⑥【音楽科】 生涯教育の始点として基礎の徹底を図る。 |
| ⑦【美術科】 美術の鑑賞を通し視点を広げ、基礎的な技能の育成を図る。 |
| ⑧【保健体育科】 ・集団行動を通して、規律ある集団の育成を図る。 ・基礎体力の向上・定着を図る。 |
| ⑨【技術・家庭科】 ・基礎、基本の定着 ・実習活動を総時間の30%以上を目指す。 |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後への改善点 |
| ①授業ごとに小テストを行い、学習の習慣づけに対しての関心を高められた。まだ不十分な生徒も多いため、今後も継続して指導を行っていく。書く力の向上の面では、定期的に作文課題を設けることで、成果を確認することができた。今後も継続して行っていくとともに、苦手意識を持つ生徒も取り組むことができるように努める。 ②授業プリントや資料プリントを使用し、基礎・基本の定着に努めた。課題を設定してのグループ学習にも取り組み、理解を深めることができた。単元の見直し等、まだまだ取り組む時間を増やすことができると思う。 ③小单元ごとにプリント教材を使用し、家庭学習の習慣、基礎・基本の定着に努めた。また、少人数授業、T.T、補習等を行うことで生徒にあった支援を行うことができたが、まだまだ苦手意識を持つ生徒が多いので今後も継続的に指導するとともに、習熟度別授業の効果的な方法を検討していきたい。 ④実験・観察等を通して、興味・関心を高められ、理解も深まった。小テストや宿題で基礎学力の定着に努めチャレンジテストでは成果も見られた。しかし、まだまだ不十分な生徒もいるので、放課後学習会などを通して学力定着に努める。 ⑤ICTやCNET、プリント教材などを活用し、さまざまな授業展開を工夫して、基礎基本の定着に努めた。今後「話すこと」を伸ばす指導にさらに力を入れていきたい。 |

⑥楽器に触れる機会を増やし、音楽に対しての積極性や関心を高めることができた。基礎においてはまだまだ苦手意識を持つ生徒が多いため、分かりやすい授業の作成及び理解できる教材研究に努める。

⑦美術史で扱う鑑賞と自分で作った作品を相互鑑賞するなどバリエーションを増やすことでより鑑賞する視点が深まった。また、基礎的な技法の習得は知識では理解しても表現することに苦手意識をもつ生徒が多いため題材の改善に努める。

⑧ペア学習やグループ学習を取り入れたり、ウォーミングアップの内容を工夫したりして、基礎体力の向上・定着を図った。集団行動に重きを置き、ほとんどの生徒が周りを意識して行動できている。

⑨基礎基本の定着のために、確認テストや実技テスト、プリントによる復習などを行った。また、各学年とも実習時間は総時間の30%を超えることができた。今後も教材の精選をし、より良い授業展開に努める。

年度目標に向けた各学年の取り組み

| |
|--|
| ① 【1年】 |
| ○ 日々の学校生活を通して、基本的な生活習慣を身に着け、規律を守る集団の育成を行う。 |
| ○ 清掃活動や学校行事を通して、他人を思いやり、仲間と協力できる集団の育成を行う。 |
| ○ 日々の授業だけでなく、放課後の学習会などを通して、学力の向上を図る。 |
| ② 【2年】 |
| ○ 自主性を高め、規律を守る集団の育成 |
| ○ 互いに認め合い、協働できる集団の育成 |
| ○ 学力の向上 |
| ③ 【3年】 |
| ○ 日々の教育活動において組織的に取り組み、規律を重んじ、社会性を身につけた集団育成を行う。 |
| ○ 生活指導上の問題や、全員に紹介するべき良い事象が起こった時に、学年集会を開き追体験をさせることによって、集団を良い方向に導く。 |
| ○ 校内秩序を壊さぬよう、生徒は生徒として過ごし、普段の学校生活や行事を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する集団育成を図る。 |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後への改善点 |
| ① ルール・時間を守ることはほとんどの生徒ができている。あいさつに関しては、まだまだ気持ちよく場面に応じてできているとは言えない。様々な学校生活・行事を通して、協力して行動できている。2年生に向けて、学力の向上と気持ちの良いあいさつができ、他人を思いやることができるような集団を育成していきたい。 |
| ② 職場体験・文化発表会・校外学習などの行事を通し自主性を高めることができた。また毎日の生活の中で時間やルールを守るよう指導し、規律を守る集団としての意識が高まってきた。去年と比較してもトラブルが減りお互いを尊重できる人間関係が構築できてきた。学級代表からの啓発（ポスター掲示・集会）により、学年全体の学習意欲向上を図った。放課後勉強会・補習・自習時間の確保など学習環境を整えた。毎朝の読書の時間の確保も継続して行うことができた。今後は最高学年としての自覚と進路選択について指導していきたい。 |
| ③ |
| ○生徒に対し、服装や言葉使い、時間を守る、授業は集中し真面目に取り組むなど、基本的な事柄を、日々細かく指導した。服装や言葉使い、授業態度などは、入学時より改善された。 |
| ○問題が起こった場合にはすぐに学年集会をひらき、全体共有化することで、再発を防止し、危機意識の向上に努めた。 |
| ○集団で学校生活を送っているということを再確認させ、自立を促すような指導（学級活動や学年の取り組みにおける生徒主体の運営、教師が口や手を出しすぎないなど）を行った。 |